しあわせ

11　月　号

宝林（ほうりん）・宝樹（ほうじゅ）微妙音（みみょうおん）
自然清和（じねんしょうわ）の伎楽（ぎがく）にて
哀婉雅亮（あいえんがりょう）すぐれたり
清浄楽（しょうじょうがく）を帰命（きみょう）せよ

（『浄土和讃』三八）

浄土の宝の樹々が奏でる妙なる音色は、
おのずと調和した清らかな音楽となり、
美しく澄み正しく冴えわたっている。
清浄なるさとりの音声をもって人々を
すくう阿弥陀如来を仰ぎなさい。
（意訳）

「手を合わす母」

今月二十三日は勤労感謝の日。昭和二十三年に施行されたもので勤労をたっとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう日ということである。

まさに縁起思想。一人で生きてゆけるものはない。縦横無尽のおかげの中にしか私が生きてゆける場はない。しかしまた、それは縦横無尽の縛りの中で生かされているということでもある。

誰しも自分の思うがごとく生きて行ければ幸せと思う。しかし、そんなバカなことなどあろうはずがないことも知っている。知っていながらもなお願い続け、思うようにならないと言って怒り狂うのが凡夫である。すなわち凡夫とは普通の人という言葉である。

幸せは、願いがかなったところにあるのではなく、互いに、寄り合い支えあっていることに気付くところ、その目覚めの中にこそ有るものだった。おかげさまに気付くところに幸せな人生が開かれる。

法座案内

報恩講法要

十二月十一日（金）昼席・夜席
十二日（土）昼席
講師　淺田　惠真　師
（本願寺派　勧学）

※本堂内は二四時間換気をしておりますが、お参りの際はマスク着用をお願い致します。

法味の会　ーご和讃の味わいー

十一月　二十日　午前十時～
お話　住職

府中町山田二丁目二十五十三
栢原山　龍仙寺
電話（〇八二）二八二十四八二三

【『浄土和讃』三九】～微妙なる音声～

沈黙とは、音がないことではない。本当の沈黙とは、そこから限りない言葉が流れだしてくる豊かな静けさであり、よい音楽とは、この沈黙の表現なのである。そのように、ある本に書いてありました。音楽が沈黙の表現というのはおもしろいですね。そういえば、

「静けさや　岩にしみいる　蝉の声」

という芭蕉の句にも、五・七・五のわずかな言葉のなかに、満ちみちた静寂を感じます。

仏さまのみ教えも、よく似ています。仏さまのさとりは涅槃（ねはん）という永遠なる静寂だと言われます。しかし、それは単なる静けさではなく、はかりなき智慧と慈悲にみちた静寂であり、仏さまのみ教えは、その静寂から流れだした微妙（みみょう）なる音声でした。言葉を超えた世界が言葉となっている、それが仏語なのですね。浄土の荘厳も、この永遠なる静寂の表現と言えるでしょう。

お浄土では、七つの宝で飾られた樹々も、宝の池も、美しい鳥たちの鳴き声も、はたらき動くものすべてが、仏のさとりを讃える微妙なる音楽を奏でており、自然に調和するそれらの音曲は、優雅に澄みとおり、正しく冴えわたり、人々の心のなかにまことの智慧をひらいていく…。お経にはそのように説かれていますが、浄土の荘厳すべてが法の音色を奏でているのは、それがかたちを超えたかたちであり、涅槃の表現に他ならないからなのです。そして浄土の微妙なる音声は、お念仏の声となって、わたしたちに届いています。

「お念仏は、外から聞こえるんですなあ」

梯実圓和上は、そのようにお念仏をいただかれていました。この世は娑婆といわれるように苦悩の境界であり、根本的に、わたしの思い通りにはなりません。ですから、わたしたちの人生は、必ず、どこかで行きづまります。

もともと出口のない迷路のように、右を向いても左を向いても、どの道を選んでも、必ず行きづまります。たとえどれほど世渡り上手な人でも、死によって行きづまるでしょう。

しかしそれでも、行きづまりというものは、本来ないのだと和上は仰っていました。なぜならば、行きづまりとは、行きづまったと思う〝その人の心〟が行きづまっているのであり、ものごとに行きづまりはないからです。

そして、自分の心によってどこにも逃げ場のない世界を描きだしていく私たち凡夫のためにこそ、阿弥陀さまの大悲の名のりは届いてくださっているのだと仰っていました。

たとえどのような苦難のなかにあろうとも、お念仏いただくならば、そこに「われ、ここにあり」と、如来の喚び声は届いてくださっています。その如来の名のりが、逃げ場のないこの世に、ほんのわずかな隙間をあけてくださるのです。

「そのわずかな隙間から、涼やかなお浄土の風が、すーっと入ってくるんですなあ…。お念仏は、外から聞こえてくるんですなあ」と和上はうれしそうに語られていました。

宝林（ほうりん）・宝樹（ほうじゅ）微妙（みみょう）音（おん）
自然清和（じねんしょうわ）の　伎楽（ぎがく）にて
哀婉雅亮（あいえんがりょう）すぐれたり
清浄楽（しょうじょうがく）を　帰命（きみょう）せよ

自分ではどうしようもない悲しみ、押さえようのない怒り、やりばのない思い…。わたしの心は、必ず行きづまります。しかし如来さまには、決して行きづまりはありません。その如来の喚び声が、いのちの意味をひらき続けてくださいます。お念仏申しましょう。浄土の荘厳が奏でる微妙の音楽が、大いなる慈悲の名のりとなって届いています。倦むことなく喚びつづけてくださる如来の名のりを、仰せのままお聞かせいただきましょう。